様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	学校臨床実践コース	記載責任者	佐藤　亨

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し，達成目標を設定するとともに，どのような具体的方策を立てて，目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

1．目標・計画

教職大学院が立ち上がってからの3年間，①鳴門生徒指導学会及び同窓会組織を利用して案内を送付し，②高知県教育委員会と協力して，現職教員等への研修会で講師を務め，③修了生への訪問等によるアフターケアを行うなど，教職大学院の広報に努めてきたが，定員を充足するには至らなかった。
今年度は，上記の取り組みを継続すると共に，①県外に関しては，院生の実地指導に行った際には，できるだけ地元の教育委員会を訪問して，今後の院生派遣の継続をお願いする，②上述した高知県の研修会以外にも，講師を務める研修会や教員免許更新講習の際に，パンフレットを配布するなどこれまで以上に積極的に広報を行う，③修了生への学校訪問だけでなく，修了生によるカンファレンスやミーティングなどを行い，これまで以上にアフターケアに努める。これらの活動を通して，入学者の30%アップを目標とする。

2．点検・評価

目標に挙げていたとおり，これまで行ってきた①鳴門生徒指導学会及び同窓会組織を利用して案内の送付，②高知県教育委員会と協力しての，現職教員等への研修会での広報，③修了生への訪問等によるアフターケアに加え，④院生の実地指導に行った際などには，小坂が香川県教育委員会，愛媛県教育委員会，徳島市教育委員会，海部郡海部小学校など，8箇所に延べ15回，末内が鈴鹿市教育委員会，徳島市教育委員会など4箇所に，延べ5回，佐藤が高知県教育委員会，土佐清水市教育委員会など3箇所に，延べ5回，阿形が阿南市立富岡小学校など2箇所に，延べ2回，コース全体では計27回の教育委員会や学校への訪問を行って，院生派遣や派遣の継続をお願いし，⑤免許状更新講習や，徳島県小学校生徒指導研究会・徳島県小中学校生徒指導主事・主任研修会での講演，学校から依頼のあった講演会などの際には，講演の中で教職大学院について説明し，パンフを配る等して積極的に広報活動を行うなど，定員確保に努めてきたが，残念ながら入学者の30%アップは達成することはできなかった。なお，修了生によるカンファレンスは2011年度には実施することはできなかったが，2012年度に実施予定である。

Ⅰ－2．学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには，常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し，本年度どのような学生支援の取り組みを行うか，具体的な方策を示して欲しい。

1．目標・計画

教職大学院が立ち上がってからの3年間，まず第一に院生が「学校臨床実践コースに来て良かった」と思えるような支援に努めた。具体的には，①通常のゼミ以外にコース院生全員による合同ゼミを定期的に企画し，コースとしての一体感の醸成に努めると同時に，多角的な視点からの討議を深めることによって実習の質の向上と院生の力量アップを目指した。②1年次の夏にコース旅行を行い，コースの一体感の醸成を図ると同時に，実習課題を院生同士でシェアすることで実習へのモチベーションを高めるように配慮した。③原則全ての講義において複数教員によるチームティーチングを行い，院生の視野の拡大に努めた。
これらの取り組みは概ね好評で，ほとんどの院生から本コースに来て良かった旨の感想が寄せられている。
今年度は，上述した取り組みを継続し，これまで以上に院生が本コースの教育に満足感が得られるように努力する。

２．点検・評価

目標に挙げていた，①合同ゼミ，②コース旅行，③チームティーチングは概ね計画通りに実施でき，院生にも好評で，コースとしての一体感の醸成に寄与すると同時に，多角的な視点からの検討を行うことで，院生の力量アップや実習の質の向上を図ることができ，概ね目標を達成することができた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－１．教育・学生生活支援

１．目標・計画

これまでと同様に教員が一体となって教育・学生支援に取り組むことで，教育目標の達成に努める。そのために，①毎週１回コース会議を実施し，情報の共有と意見の集約に努める，②毎月１回全院生と意見交換会を行い，コースの運営や教育活動に院生からの意見を積極的に取り入れる，③原則全ての授業において，全教員が参加するTTを行い，様々な視点からの指導を組み合わせることによって院生の視野の拡大と力量の向上を目指す。

２．点検・評価

目標に挙げたとおり，①毎週１回のコース教員による会議，②毎月１回の院生との意見交換会，③ほとんど全ての授業におけるチームティーチングを実施し，教員が一体となって院生の指導に当たることで，院生の視野の拡大と力量の向上を図ることができ，概ね目標を達成することができた。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

これまで本コースでは，事例研究を中心においた授業を積極的に行ってきており，概ね授業評価も好評である。そのため，より一層その教育的効果の向上を図るために，有効な事例検討会のあり方について検討する。特に，院生の勤務校実習における事例検討会について知見を深め，学校現場における有効な事例検討会のあり方について探っていく。

２．点検・評価

これまで同様に事例検討を中心とした授業を積極的に行い，授業評価も好評であった。また，実習指導の際に学校現場での事例検討会にも積極的に参加し，教員個々の立場では有効な事例検討会のあり方について検討を行っている。ただし，コースとして組織的に事例検討会の有効なあり方について検討を行うまでには至っておらず，今後の課題である。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

コースに所属する教員が，高度学校教育専攻の副専攻長やコラボレーションオフィススタッフとして教職大学院の運営に積極的に関わり，円滑な大学運営に寄与する。

2．点検・評価

コースに所属する教員4名全てが，教職大学院副専攻長，コース長，コラボレーションオフィススタッフ（2名）として，教職大学院の運営に積極的に関わっており，円滑な大学運営に寄与することができた。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

①連携協力校との関係を深め，院生の指導だけでなく，連携協力校における事例検討会や研修会に積極的に関与することによって，連携協力校の学校運営に寄与する。
②コースに所属する教員が，これまで同様にスクールカウンセラーや児童自立支援施設におけるボランティアスタッフ等として，学校現場や関係機関の運営に積極的に関わり，その円滑な運営に寄与していく。

2．点検・評価

目標に挙げたとおりに，①連携協力校における事例検討会や研修会に積極的に関与し，学校運営に寄与することができ，②コース教員はそれぞれスクールカウンセラーや児童自立支援施設におけるボランティアスタッフ等として，学校現場や関係機関の運営に寄与することができたなど，概ね目標は達成することができた。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）